

令和4(2022)年度 かわさき市民アンケート概要版

調査目的等

調査目的	市民の定住状況、市政に対する評価と要望などの継続的に行ってきた調査に加え、いくつかのテーマについて、市民の生活意識や行政に対する意識を調査し、市政運営や政策立案の参考資料とすることを目的に実施。
調査経緯	昭和 50（1975）年度から毎年 1 回実施していた「市民意識実態調査」を、より多くのテーマ、より多くの対象に調査するために、調査回数を年 2 回に拡充し、名称を変更して平成 18 年（2006）年度から実施することとしたもの。
調査地域	川崎市全域
調査対象	川崎市在住の満 18 歳以上の個人

調査方法等

	第 1 回アンケート	第 2 回アンケート
調査方法	インターネット調査	郵送調査
標本抽出	インターネットモニター登録者から抽出	住民基本台帳からの層化無作為抽出
標本数	1, 500 標本回収まで	3, 000 標本
有効回収数	1, 500	1, 556
有効回収率		51.9%
調査期間	令和4年8月26日(金) から 9月6日(火) まで	令和4年11月1日(火) から 12月9日(金) まで
調査項目	<ul style="list-style-type: none"> ・みどりとの関わりについて ・コミュニティに係る施策について ・選挙について ・新型コロナウイルス感染症について 	<ul style="list-style-type: none"> ・定住状況について ・生活環境の評価について ・関心ごとと行動範囲について ・市政に対する評価と要望について ・夢見ヶ崎動物公園について ・新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う生活の変化について ・新型コロナウイルス感染症について

※表中の「百分率」は小数点第 2 位を四捨五入しているため、数値の合計が 100 にならない場合があります。
 ※当冊子は、調査結果の一部を抜粋したものです。各設問の番号は、調査票と同じ設問番号を記載しています。
 ※インターネット調査は、対象者を母集団から無作為抽出しているものではないため、回答者の属性に偏りが出ます。回答傾向から課題を発見するプリテストに適した調査方法です。

1 みどりとの関わりについて

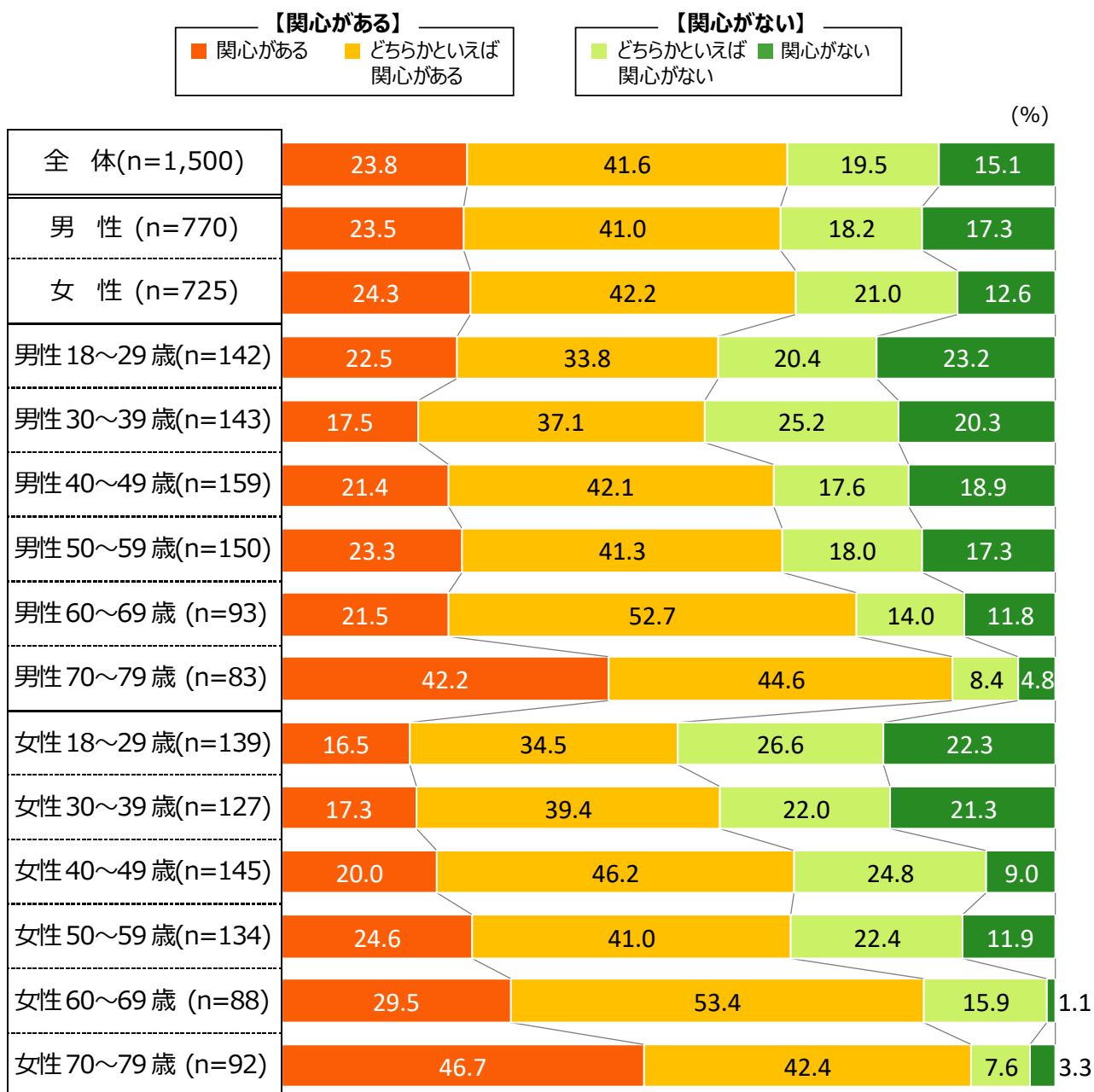
1 「みどり」への関心の程度

Q 1. 日常生活の中で、あなたはどの程度「みどり」に関心がありますか。

「関心がある」と「どちらかといえば関心がある」を合計した【関心がある】は 65.4%、「どちらかといえば関心がない」と「関心がない」を合計した【関心がない】は 34.6%であった。

性／年齢別に見ると、【関心がある】は男性 70～79 歳（86.7%）、女性 70～79 歳（89.1%）と女性 60～69 歳（83.0%）で 8 割を超えている。一方で、男女ともに 18～29 歳と 30～39 歳では 5 割台に留まった。

【図表 1】「みどり」への関心の程度（性／年齢別）

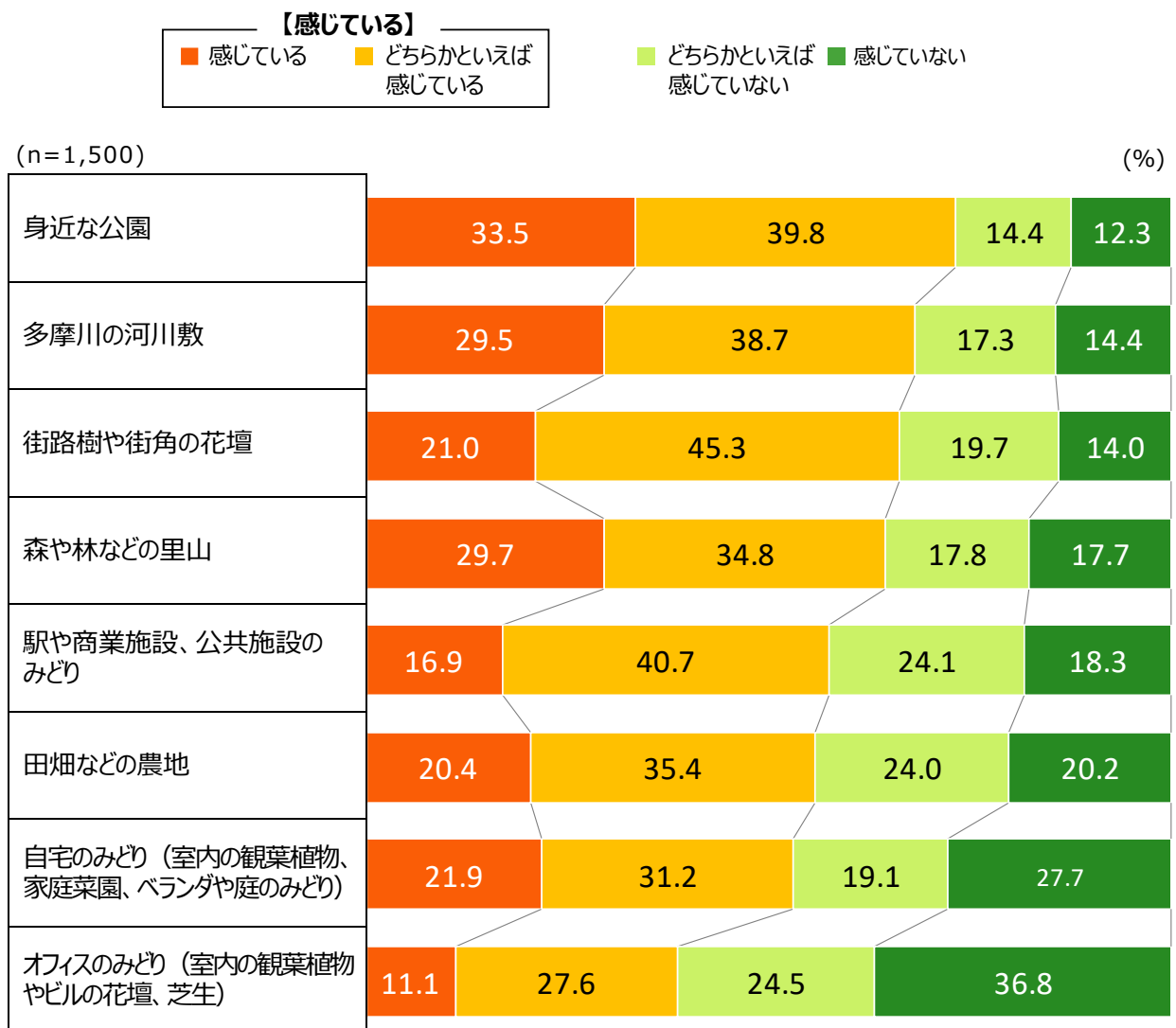


2 「みどり」に愛着を感じる程度

Q 2. 次の「みどり」について、あなたはどの程度、安らぎや癒し、親しみなどの愛着を感じますか。
項目ごとに最も近いものを選んでください。

「感じている」と「どちらかといえば感じている」を合計した【感じている】は「身近な公園」が73.3%と最も多く、次いで「多摩川の河川敷」(68.3%)、「街路樹や街角の花壇」(66.3%)、「森や林などの里山」(64.5%)と続いている。

【図表 2】「みどり」に愛着を感じる程度



3 総合公園の利用頻度・認知状況

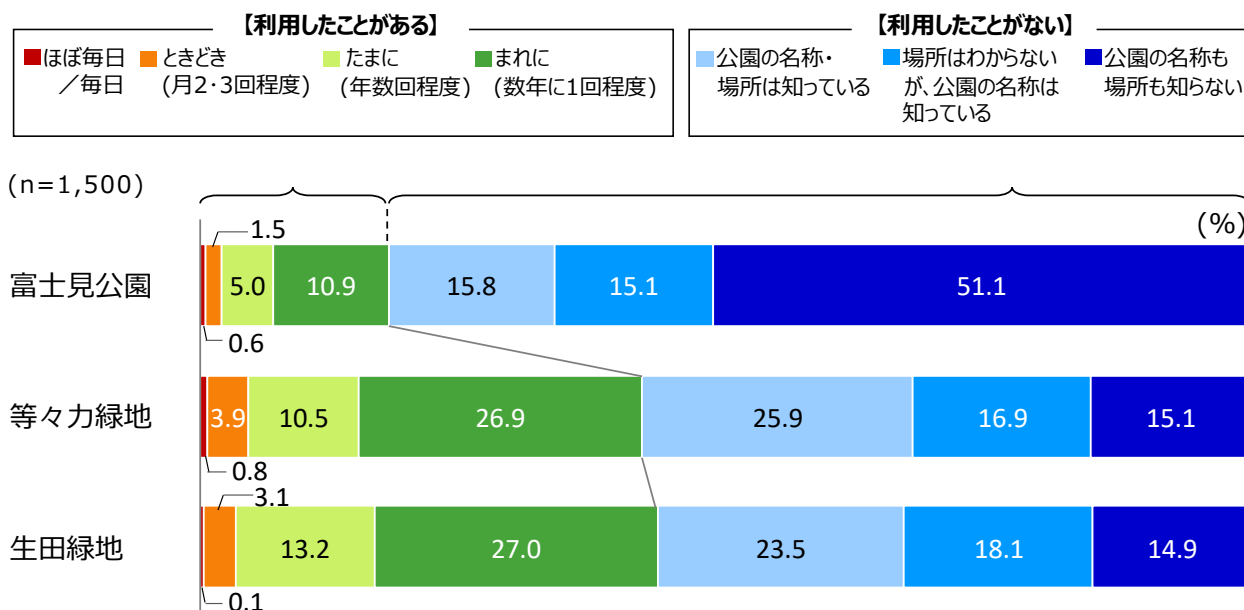
Q3. あなたは以下の3つの総合公園それぞれについて、これまでに利用したことがありますか。利用したことがある方は利用頻度について、利用したことがない方は、公園の名称や場所について知っていたかについてお答えください。

富士見公園の利用状況は、【利用したことがある】が18.0%、【利用したことがない】が82.0%で、【利用したことがある】人の利用頻度は、「まれに（数年に1回程度）」が10.9%と最も多い。認知度（【利用したことがある】と「公園の名称・場所は知っている」、「場所はわからないが、公園の名称は聞いたことがある」の合計）は全体の48.9%であった。

等々力緑地の利用状況は、【利用したことがある】が42.1%、【利用したことがない】が57.9%で、【利用したことがある】人の利用頻度は、「まれに（数年に1回程度）」が26.9%と最も多い。認知度は全体の84.9%であった。

生田緑地の利用状況は、【利用したことがある】が43.4%、【利用したことがない】が56.6%で、【利用したことがある】人の利用頻度は、「まれに（数年に1回程度）」が27.0%と最も多い。認知度は全体の85.1%であった。

【図表 3】 総合公園の利用頻度・認知状況



2 コミュニティに係る施策について

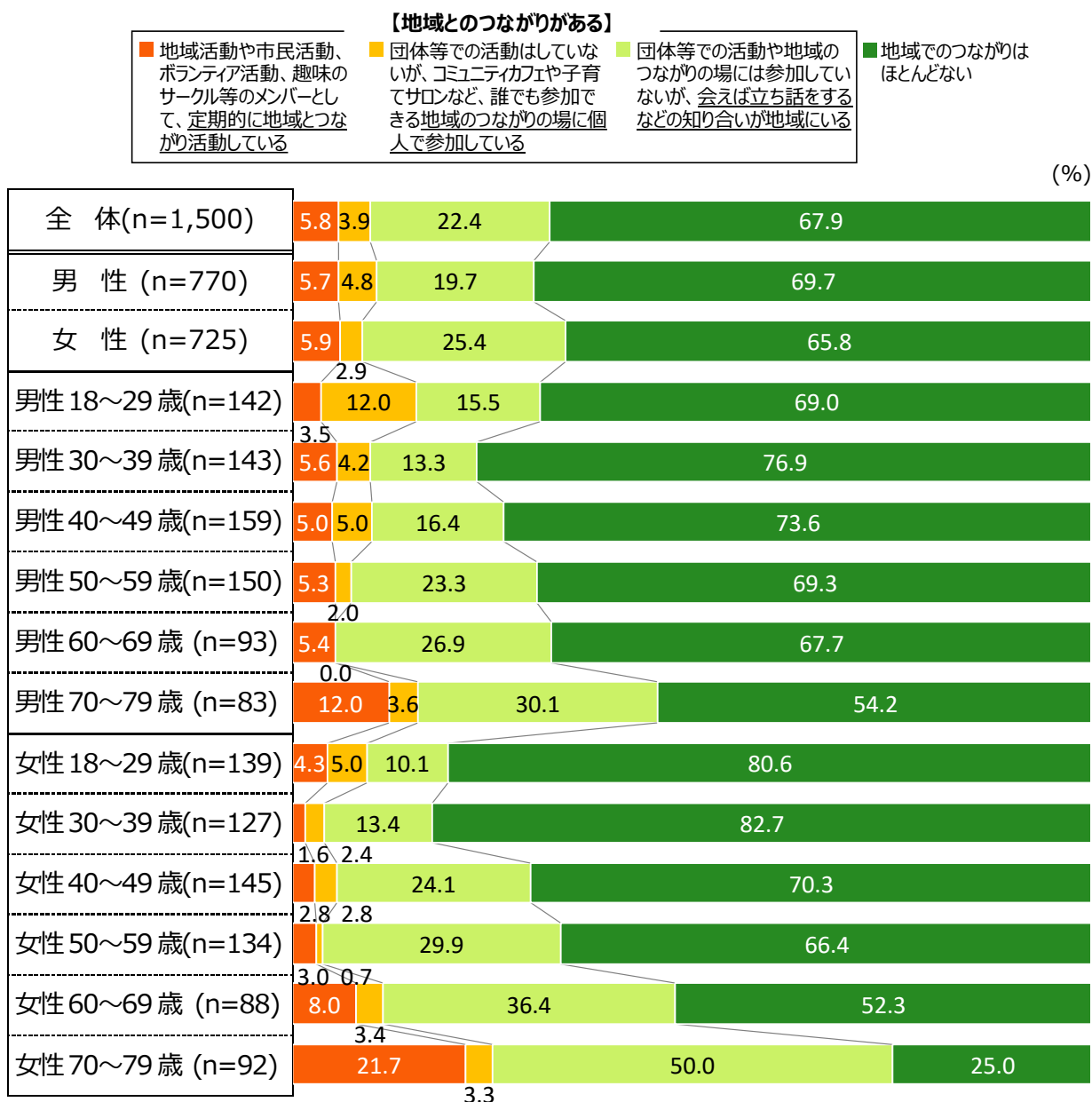
1 地域とのつながりについて

Q8. あなたは、日常生活の中で、自分の住んでいる地域とどのようなつながりを持っていますか。
最も近いものを選んでください。

「地域活動や市民活動、ボランティア活動、趣味のサークル等のメンバーとして、定期的に地域とつながり活動している」(5.8%)、「団体等での活動はしていないが、コミュニティカフェや子育てサロンなど、誰でも参加できる地域のつながりの場に個人で参加している」(3.9%)、「団体等での活動や地域のつながりの場には参加していないが、会えば立ち話をするなどの知り合いが地域にいる」(22.4%)を合計した【地域とのつながりがある】は32.1%にとどまり、「地域でのつながりはほとんどない」が67.9%と全体のおよそ3分の2を占めた。

性/年齢別に見ると、【地域とのつながりがある】は男女ともに70~79歳で最も多くなっている。特に女性70~79歳は75.0%と飛び抜けて多く、なかでも「団体等での活動や地域のつながりの場には参加していないが、会えば立ち話をするなどの知り合いが地域にいる」が半数を占めている。

【図表 4】 地域とのつながりについて (性/年齢別)



3 選挙について

1 政治への関心の程度

Q13. あなたは、ふだん国や地方の政治にどの程度関心がありますか。外国籍の方は「外国籍である」を選んでください。

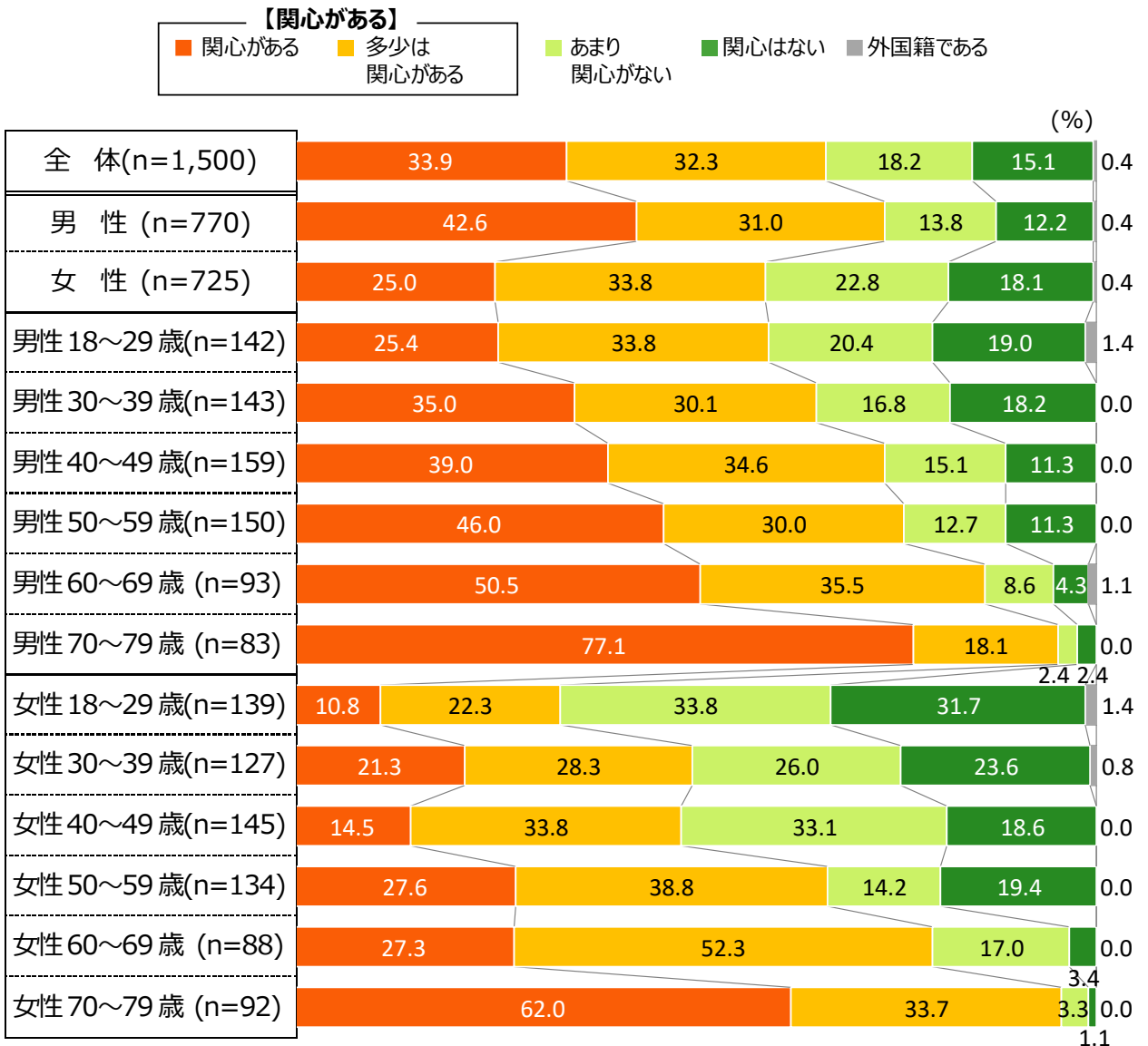
① 国政選挙（衆議院総選挙・参議院選挙）

「国政選挙（衆議院総選挙・参議院選挙）」については、「関心がある」が 33.9%と最も多く、「多少は関心がある」（32.3%）との合計である【関心がある】は 66.3%であった。

性別に見ると、「関心がある」と「多少は関心がある」を合計した【関心がある】は女性（58.8%）よりも男性（73.6%）の方が 14.8 ポイント高くなっている。

性／年齢別に見ると、【関心がある】は男女ともに 70～79 歳で最も多く（男性 95.2%、女性 95.7%）、18～29 歳で最も少なくなっており（男性 59.2%、女性 33.1%）、概ね年齢が上がるほど関心が高くなっている

【図表 5】政治への関心の程度《国政選挙（衆議院総選挙・参議院選挙）》（性／年齢別）

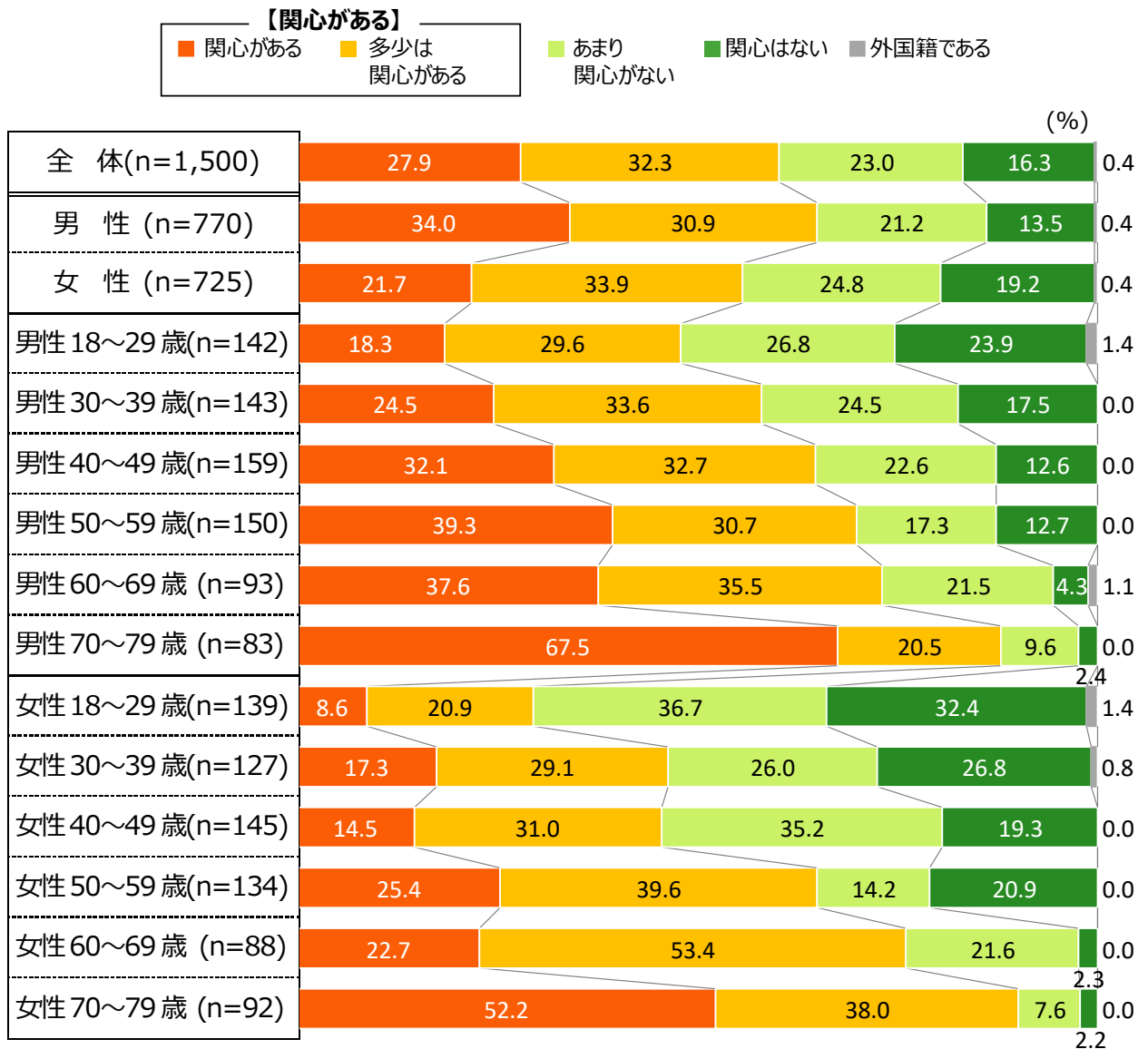


② 地方選挙（市長選挙・市議会議員選挙等）

「地方選挙（市長選挙・市議会議員選挙等）」については、「多少は関心がある」が 32.3%と最も多く、「関心がある」（27.9%）との合計である【関心がある】は 60.3%であった。

性／年齢別では、「国政選挙（衆議院総選挙・参議院選挙）」とほぼ同じ傾向となっており、【関心がある】は男女ともに 70～79 歳で最も多く（男性 88.0%、女性 90.2%）、18～29 歳で最も少なくなっている（男性 47.9%、女性 29.5%）が、「地方選挙」よりも「国政選挙」の方が全体的に関心の度合いが高い。

【図表 6】政治への関心の程度《地方選挙（市長選挙・市議会議員選挙等）》（性／年齢別）



4 定住状況について

1 居住年数

問1. あなたは、川崎市及び現在のお住まいの区に、通算、何年間居住していますか。また、現在のお住まいには、何年間、居住していますか。

① 川崎市

居住年数「20年以上」は56.2%、5年以上の居住者は85.8%となっている。

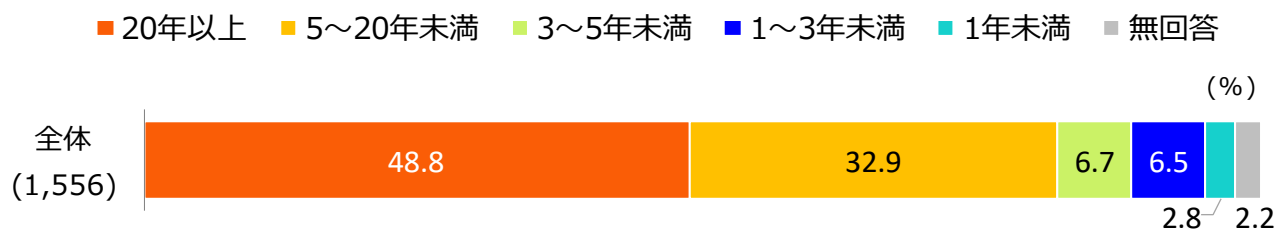
【図表 7】 居住年数（川崎市）



② 現在お住まいの区

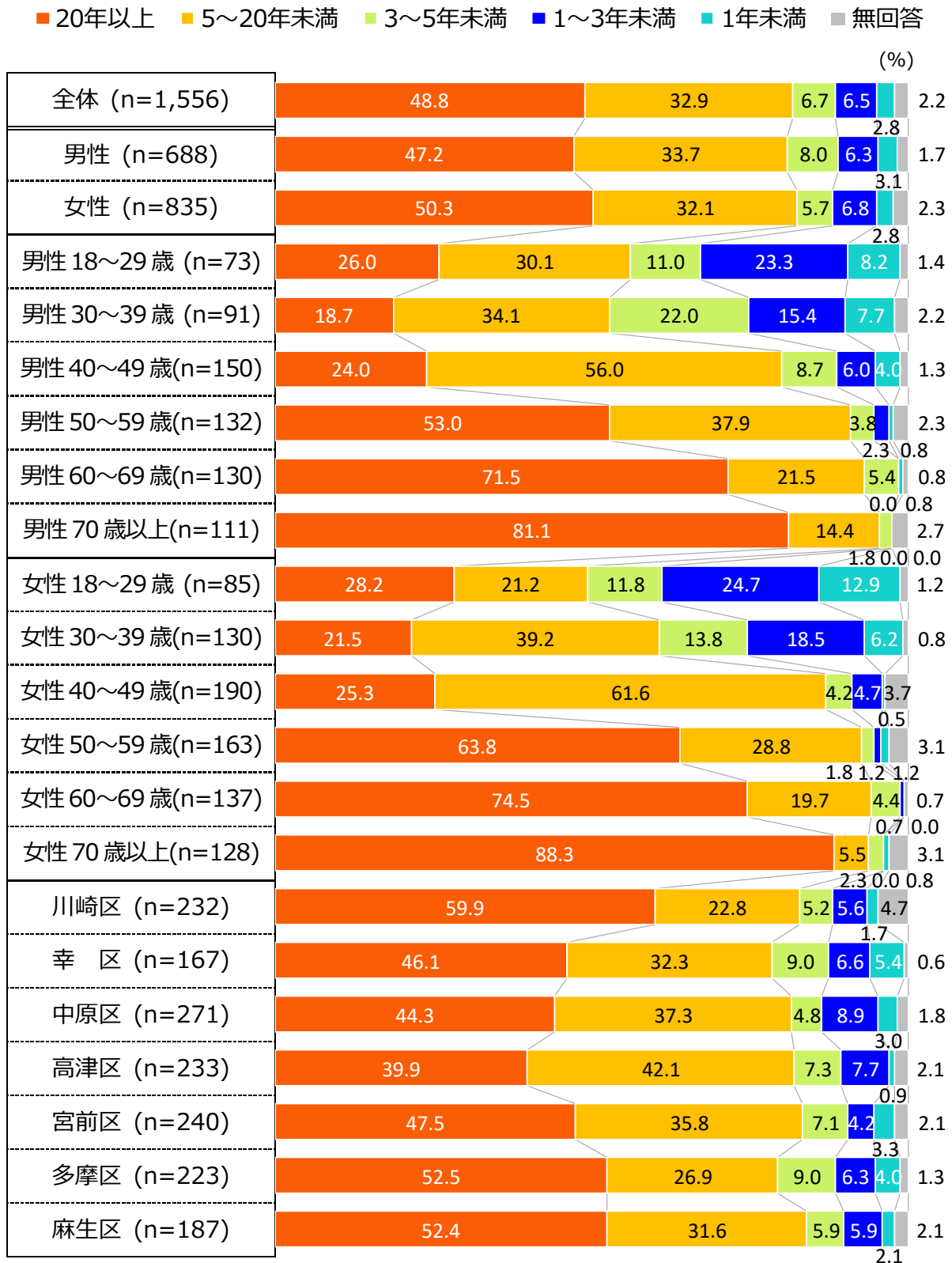
居住年数「20年以上」は48.8%、5年以上の居住者は81.7%となっている。

【図表 8】 居住年数（現在お住まいの区）



性／年齢別に見ると、男女ともに50歳代以上で「20年以上」が5割を上回っている。
 居住区別では、「20年以上」は川崎区(59.9%)が最も多く、次いで多摩区(52.5%)、麻生区(52.4%)、宮前区(47.5%)と続き、最も少ないのは高津区(39.9%)であった。

【図表 9】 居住年数(現在お住まいの区)
 (性／年齢別、居住区別)

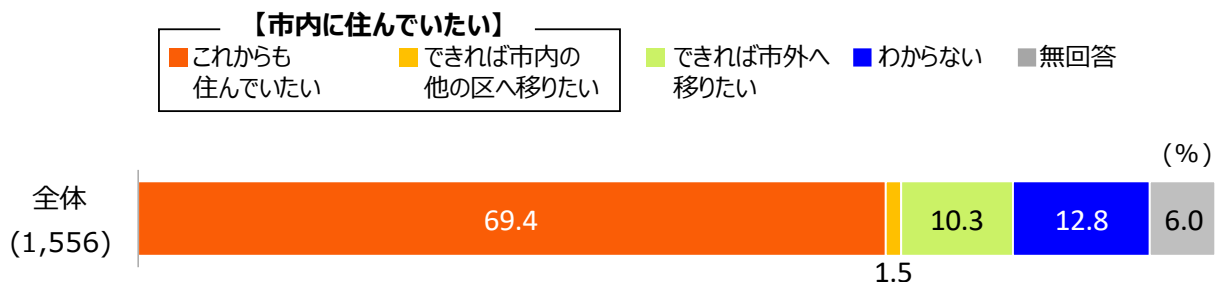


2 定住意向

問2. あなたは、これからも現在の区にお住まいになりたいですか。

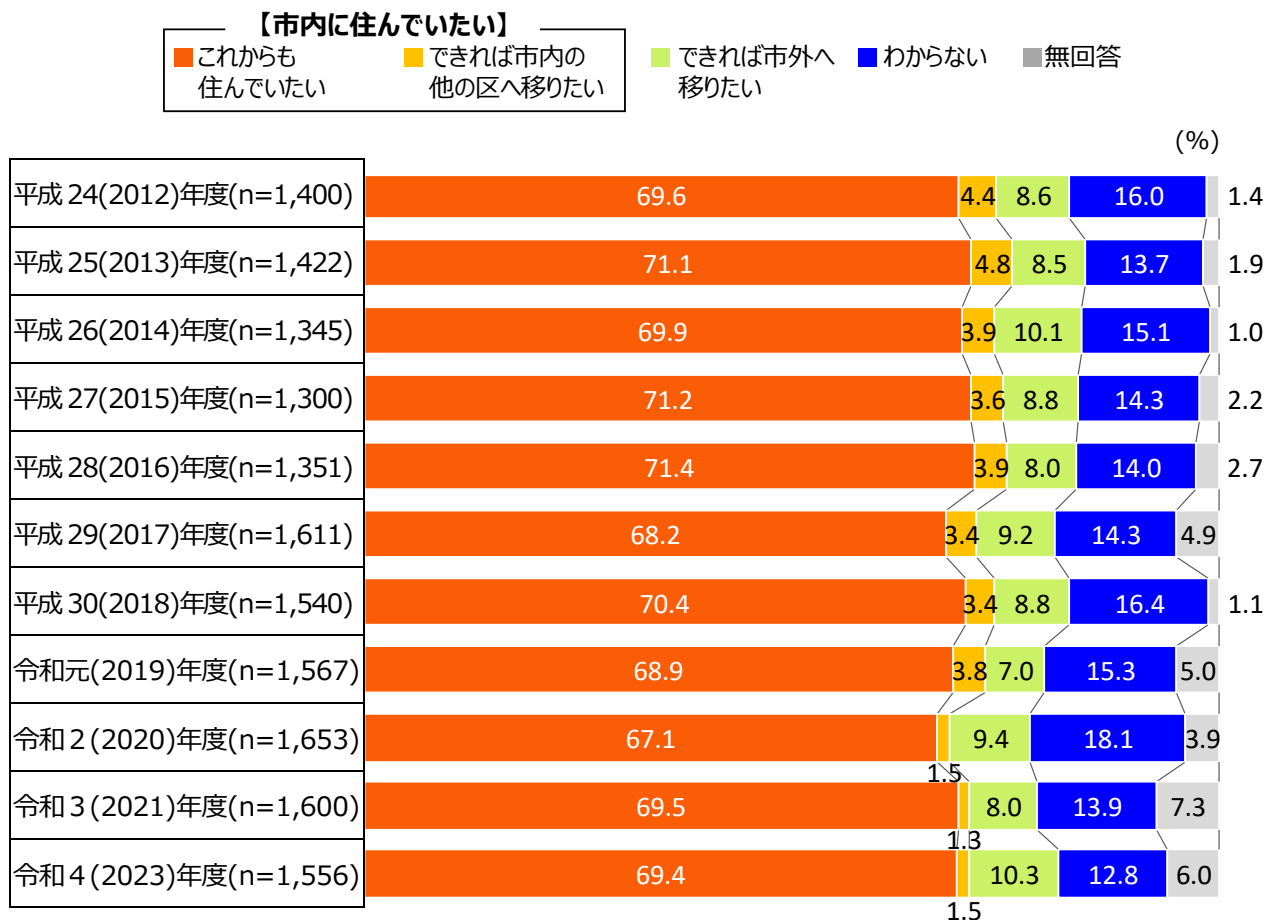
「これからも住んでいたい」(69.4%)と「できれば市内の他の区へ移りたい」(1.5%)を合計した【市内に住んでいたい】は71.0%であった。「できれば市外へ移りたい」は10.3%であった。

【図表 10】定住意向



この10年間において、「これからも住んでいたい」は70%前後で推移しており、今年度は昨年度(令和3年度)とほぼ同程度であった。

【図表 11】定住意向(経年比較)



※令和2年度までの設問文は「これからも今のところにお住まいになりたいですか」で実施。

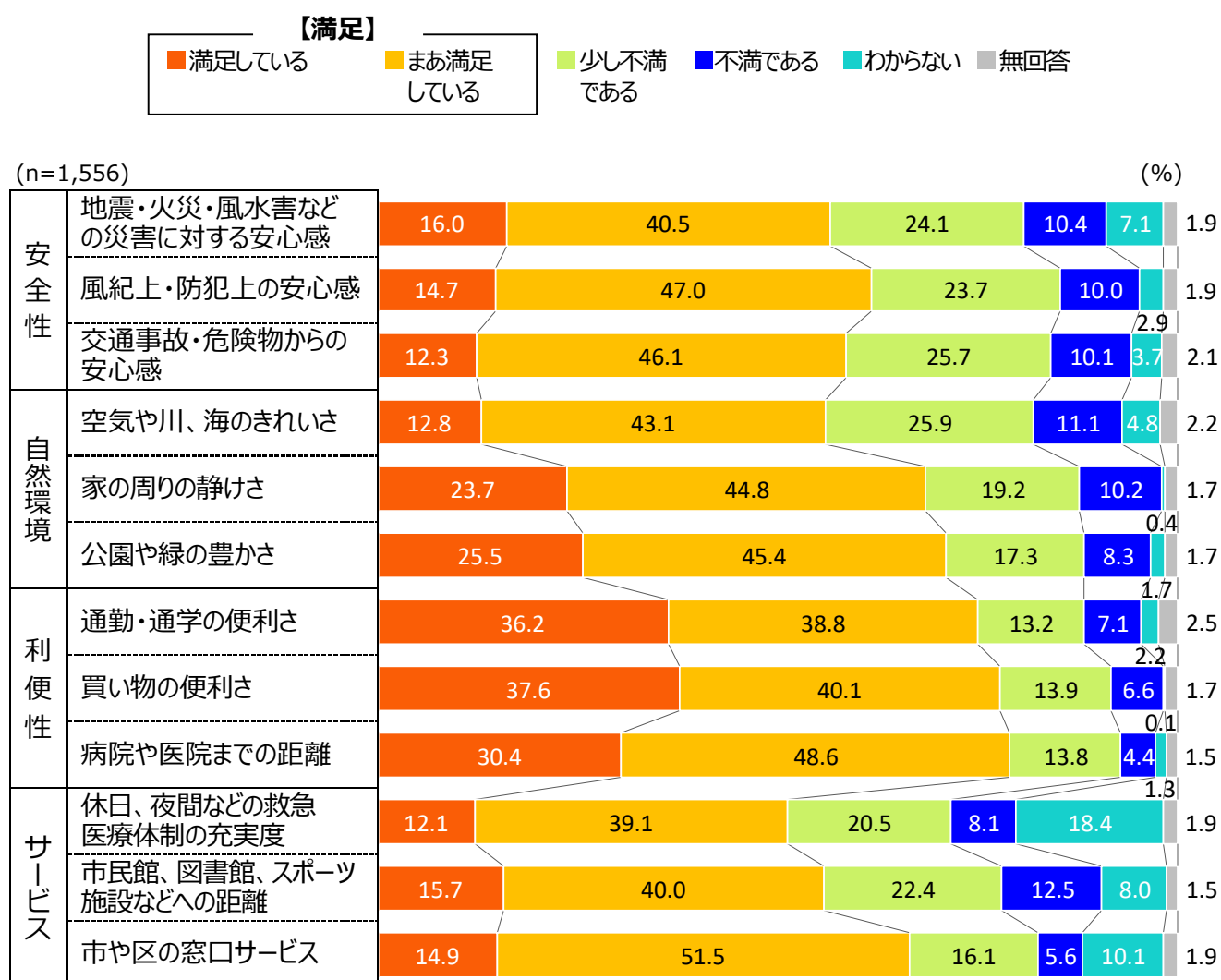
5 生活環境の評価について

1 生活環境の満足度

問5. お住まいの周りの生活環境についてうかがいます。あなたは、次にあげる項目についてどの程度満足していますか。

生活環境の満足度について、「満足している」と「まあ満足している」を合計した【満足】は、『利便性』の項目で高く、「病院や医院までの距離」(79.0%)、「買い物の便利さ」(77.7%)、「通勤・通学の便利さ」(75.0%)で75%を超えている。一方、5割は越えているものの、【満足】が最も低いのは「休日、夜間などの救急医療体制の充実度」(51.2%)であった。

【図表 12】生活環境の満足度

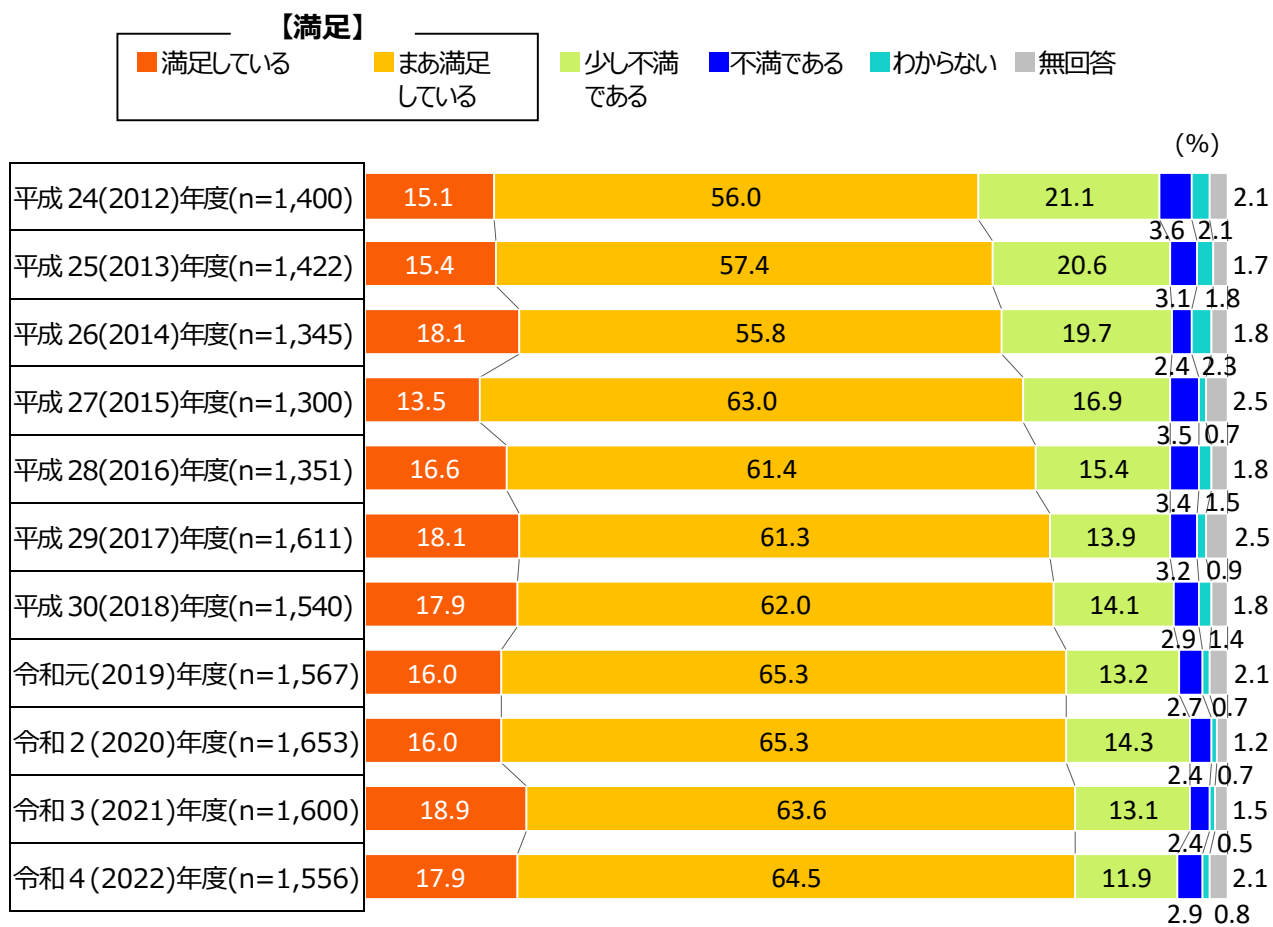


問6. あなたは、地域の生活環境を総合的に見た場合、今住んでいる地域にどの程度満足していますか。

総合的な生活環境の満足度について、「満足している」(17.9%)と「まあ満足している」(64.5%)を合計した【満足】は82.4%であった。

また、過去の調査結果と比較すると、【満足】は、5年前(平成29年度)と比較して3.0ポイント、10年前(平成24年度)と比較して11.3ポイントの増加となっているが、令和元(2019)年度以降はほぼ横ばいで推移している。

【図表 13】総合的な生活環境の満足度(経年比較)



6 市政に対する評価と要望について

1 市政の仕事でよくやっていると思うこと

問9. 川崎市の市政について総合的にうかがいます。あなたは、川崎市が行っている施策や事業の中で、よくやっていると思われるものはどれですか。

「日常のごみ収集やリサイクル」(51.9%)が最も多く、次いで「健康診断、がん検診、健康相談など、健康づくりのための施策」(34.4%)、「水道水の安定供給」(30.1%)と続いている。

【図表 14】 市政の仕事でよくやっていると思うこと《上位 25 項目》(複数回答)



上位3項目について、10年前（平成24年度）、5年前（平成29年度）からの推移を10年前→5年前→今回の順で見ると、「日常のごみ収集やリサイクル」はすべて1位で、「健康診断、がん検診、健康相談など、健康づくりのための施策」は4位→5位→2位となっている。「水道水の安定供給」は2位→2位→3位と、順位の前後は多少あるものの傾向に大きな違いは見られない。

【図表 15】 市政の仕事でよくやっていると思うこと《上位25項目》（複数回答）
（経年比較）

	令和4年度 (n=1,556)	平成29年度 (n=1,611)	平成24年度 (n=1,400)
日常のごみ収集やリサイクル	51.9	49.5	50.6
健康診断、がん検診、健康相談など、健康づくりのための施策	34.4	28.9	26.4
水道水の安定供給	30.1	35.9	35.2
バスなどの交通網の整備	24.2	30.5	27.4
放置自転車、駐輪場の整備などの自転車対策	21.0	27.9	24.1
主要な駅周辺の再開発	20.0	30.3	25.1
道路、公園、広場の美化・維持管理や自然・緑の保全	19.7	26.0	23.9
下水道の整備	15.0	22.2	21.5
道路・歩道の整備	14.4	18.8	16.3
文化的な催しや文化施設の整備	14.2	26.7	19.9
病院、診療所の整備や救急医療体制の整備	13.6	18.7	18.3
河川の整備	12.1	18.7	16.9
高齢者のための施策	11.4	13.0	10.1
市や区の仕事などについての情報提供	10.4	20.7	18.5
防犯対策	10.0	15.2	12.3
子どものための施策	9.3	16.5	11.2
交通安全対策	9.1	16.8	15.2
小・中・高校の施設整備や教育内容の充実のための施策	7.0	13.4	9.1
消防力の強化や防災体制の整備	5.8	19.7	16.6
観光推進、都市イメージの向上（シティプロモーション）	5.6	16.5	11.9
障害者のための施策	5.6	10.7	9.1
ICT・デジタル技術の活用	5.5	-	-
市民が学習・運動する機会や施設の整備	4.8	14.6	13.4
市政への市民参加の促進のための施策	4.3	13.2	12.3
市営住宅の建設・整備	4.2	13.0	12.1

※「道路、公園、広場の美化・維持管理や自然・緑の保全」：平成24年度では「道路、公園、広場の美化・清掃」「公園の整備や維持管理」「自然や緑の保全」で実施しており、数値は3項目の平均値

※「文化的な催しや文化施設の整備」：平成24年度では「映画祭、国際会議など文化的な催しや活動」と「美術館、各種ホールなど文化施設の整備」で実施しており、数値は2項目の平均値

※「観光推進、都市イメージの向上（シティプロモーション）」：平成24年度では「観光推進、シーサー（都市イメージの向上）」で実施
※「市民が学習・運動する機会や施設の整備」：平成24年度では「市民が学習する機会や施設の整備」と「スポーツ・レクリエーションの施設整備」で実施しており、数値は2項目の平均値

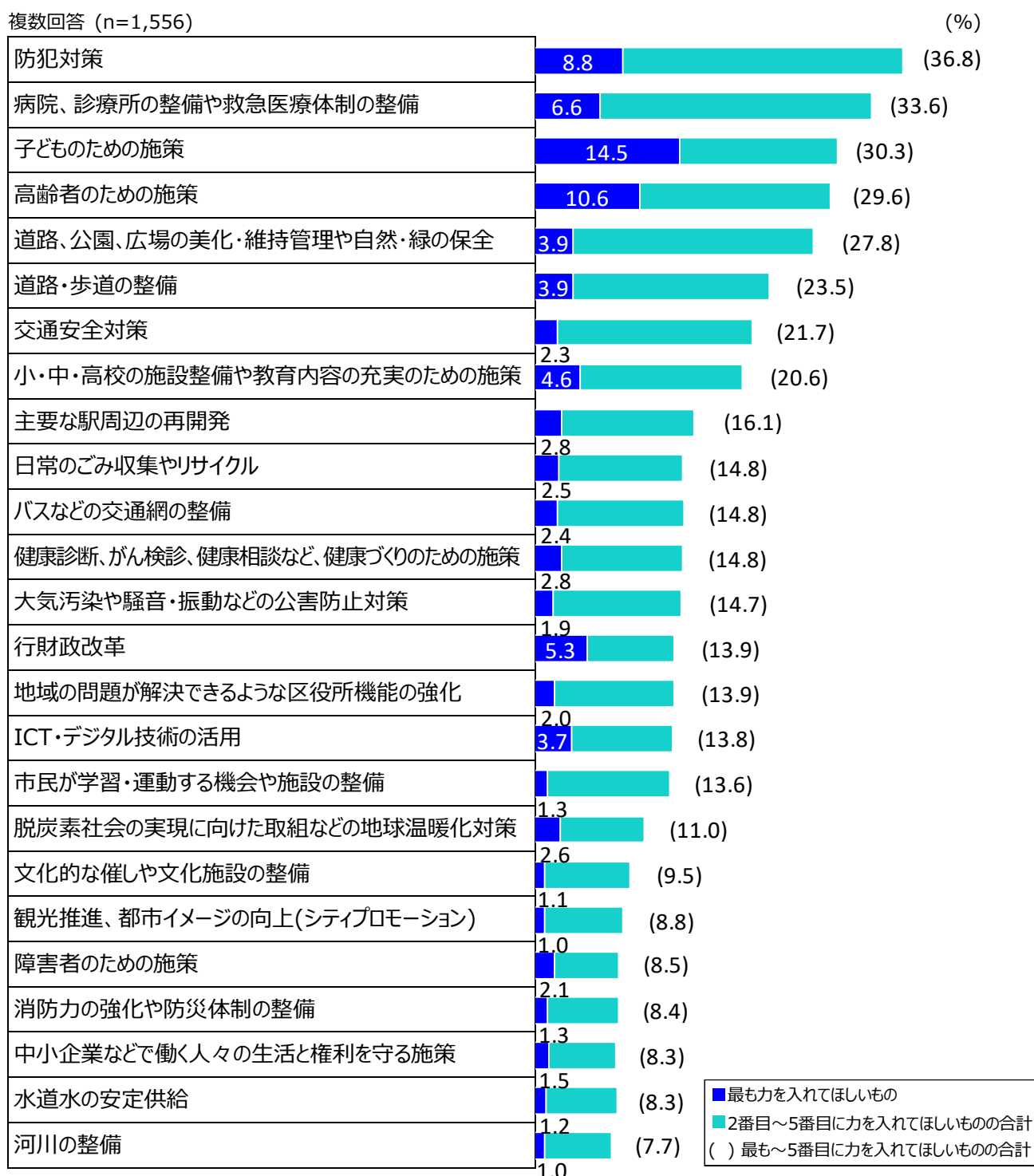
※「ICT・デジタル技術の活用」：令和4年度から項目を追加設定

2 市政の仕事で今後特に力を入れてほしいこと

問 10. 問 9 の川崎市が行っている施策や事業の中で、今後特に力を入れてほしいものはどれですか。最も力を入れてほしいものから、順に 5 つ選んでください。

「最も力を入れてほしいもの」～「5 番目に力を入れてほしいもの」の合計では「防犯対策」(36.8%)、「病院、診療所の整備や救急医療体制の整備」(33.6%)、「子どものための施策」(30.3%) の順であるが、「最も力を入れてほしいもの」だけで見ると、「子どものための施策」(14.5%) が最も多くなっている。

【図表 16】市政の仕事で今後特に力を入れてほしいこと《上位 25 項目》(複数回答)



7 夢見ヶ崎動物公園について

1 夢見ヶ崎動物公園の認知・利用状況

問 12. 夢見ヶ崎動物公園をこれまでに利用したことがありますか。利用したことがある方は利用頻度をお答えください。また、利用したことがない方は、公園の名称を知っていたかについてお答えください。

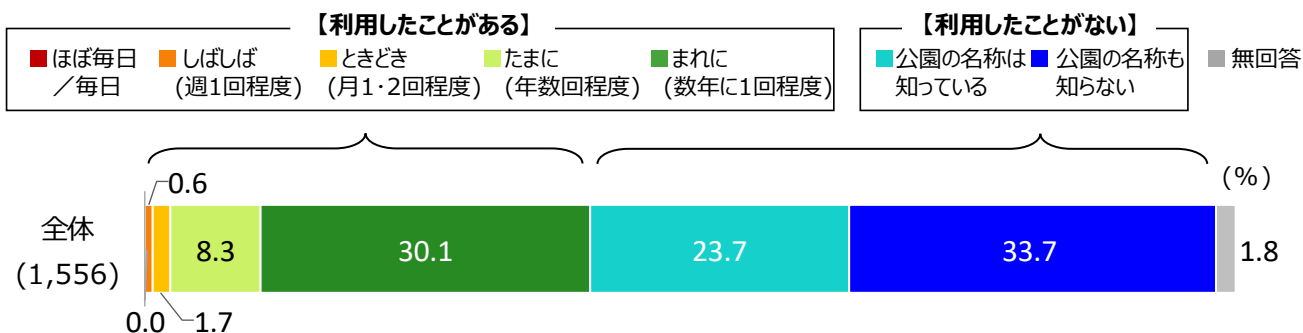
夢見ヶ崎動物公園の利用状況は、【利用したことがある】が40.8%、【利用したことがない】が57.4%であった。

【利用したことがある】人の利用頻度は、「まれに（数年に1回程度）」が30.1%と最も多い。

【利用したことがない】人の公園についての認知状況は、「利用したことがなく、公園の名称も知らない」（33.7%）が約3分の1を占めている。

認知度（【利用したことがある】と「利用したことはないが、公園の名称は知っている」の合計）は全体の64.5%であった。

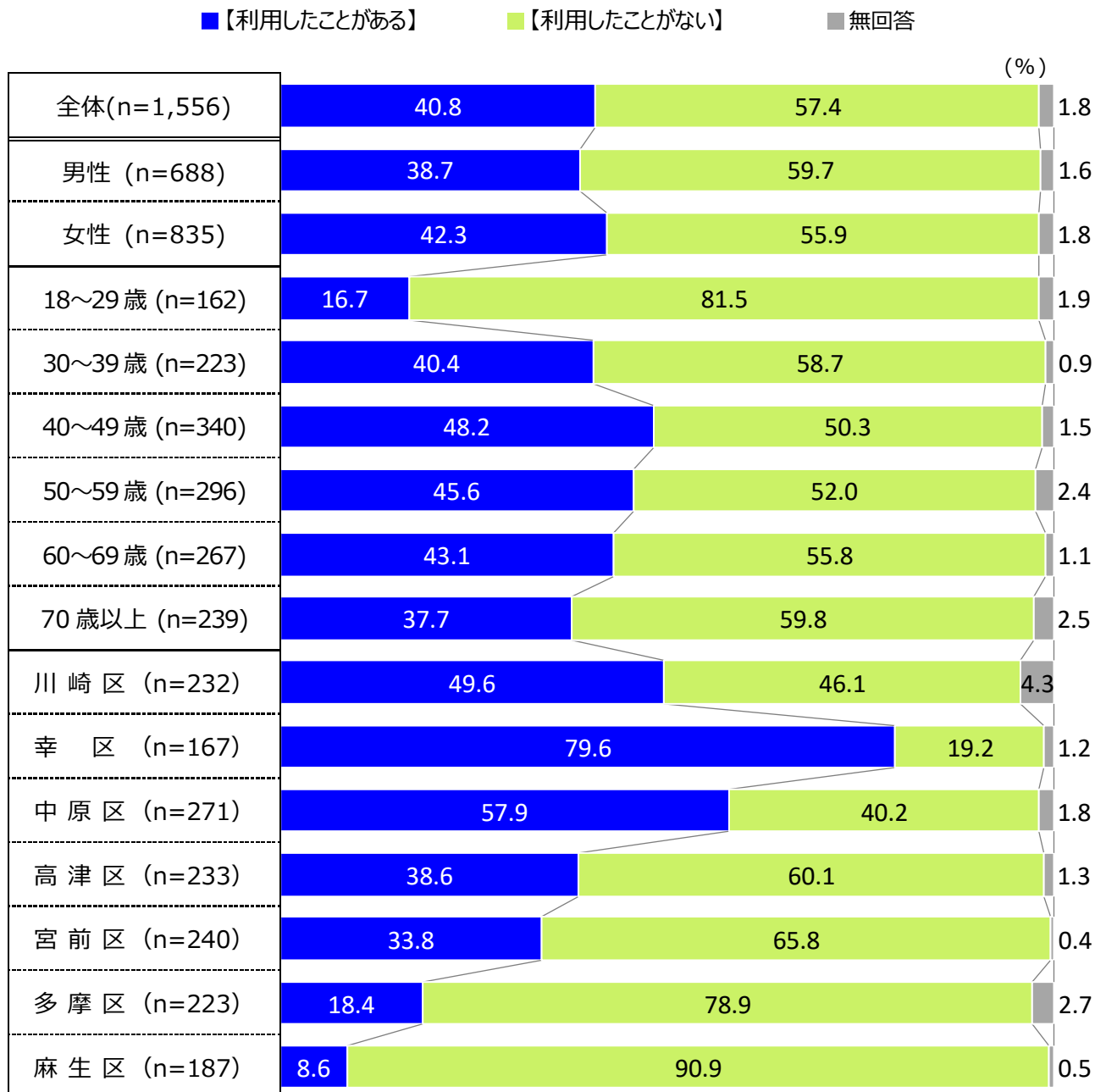
【図表 17】 夢見ヶ崎動物公園の認知・利用状況



【利用したことがある】を年齢別に見ると、40～49歳が48.2%と最も多く、18～29歳が16.7%と最も少ない。

居住区別に見ると、【利用したことがある】が最も多い幸区（79.6%）はほぼ8割、最も少ない麻生区（8.6%）では1割を下回った。

【図表 18】 夢見ヶ崎動物公園の利用状況（性別、年齢別、居住区別）



2 夢見ヶ崎動物公園のリニューアルについての考え

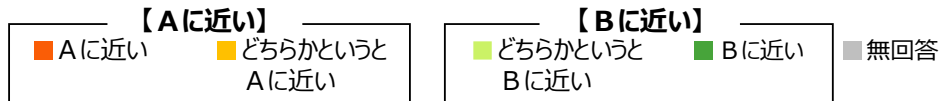
問 16. 夢見ヶ崎動物公園をより多くの方に、楽しく、快適に利用していただくために、市では限りある予算をどのように使うかを検討しています。
 そこでいかがいですが、夢見ヶ崎動物公園のリニューアルに関して、AとBの考え方でどちらの方があなたのお考えに近いですか。項目ごとに最もあてはまるものを1つずつ選んでください。

A:「動物園」の機能を充実させるため、動物の住まいや見学しやすさの改修に力を入れるべきである
 B:「公園」の機能を充実させるため、広場や遊具の使いやすさの改修に力を入れるべきである

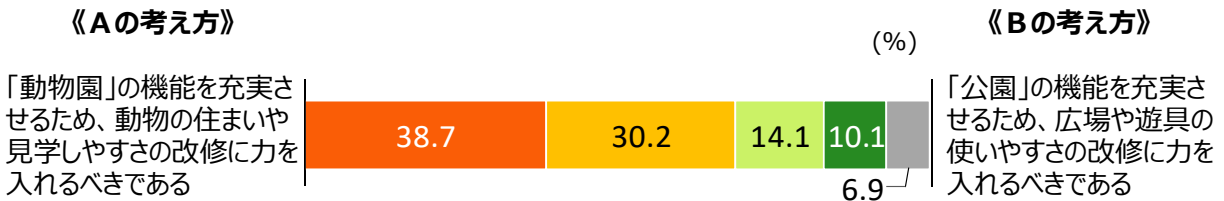
【Aに近い】が 68.9%と、『「動物園」の機能を充実させるため、動物の住まいや見学しやすさの改修に力を入れるべきである』という考え方に近いと回答した人の方が多かった。

【図表 19】 夢見ヶ崎動物公園のリニューアルについての考え

A:「動物園」の機能を充実させるため、動物の住まいや見学しやすさの改修に力を入れるべきである
 B:「公園」の機能を充実させるため、広場や遊具の使いやすさの改修に力を入れるべきである



(n=1,556)



A: 全て無料で利用できる施設・イベントの方がよい
 B: 動物の健康や施設の魅力が高まる動物公園にするためならば、一部の施設・イベントにお金を払ってもよい

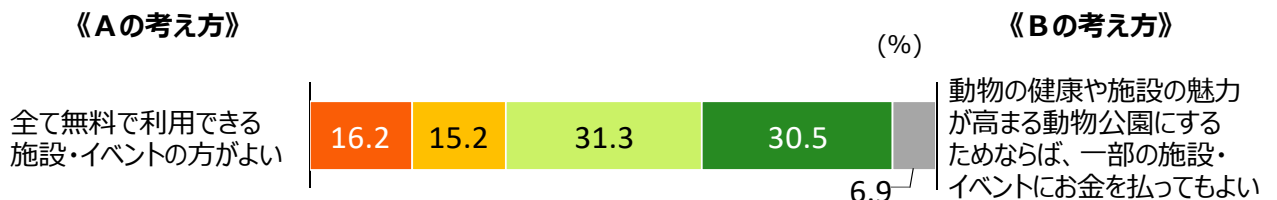
【Bに近い】が 61.8%と、『動物の健康や施設の魅力が高まる動物公園にするためならば、一部の施設・イベントにお金を払ってもよい』という考え方に近いと回答した人の方が多かった。

【図表 20】 夢見ヶ崎動物公園のリニューアルについての考え

A: 全て無料で利用できる施設・イベントの方がよい
 B: 動物の健康や施設の魅力が高まる動物公園にするためならば、一部の施設・イベントにお金を払ってもよい



(n=1,556)



8

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う生活の変化について

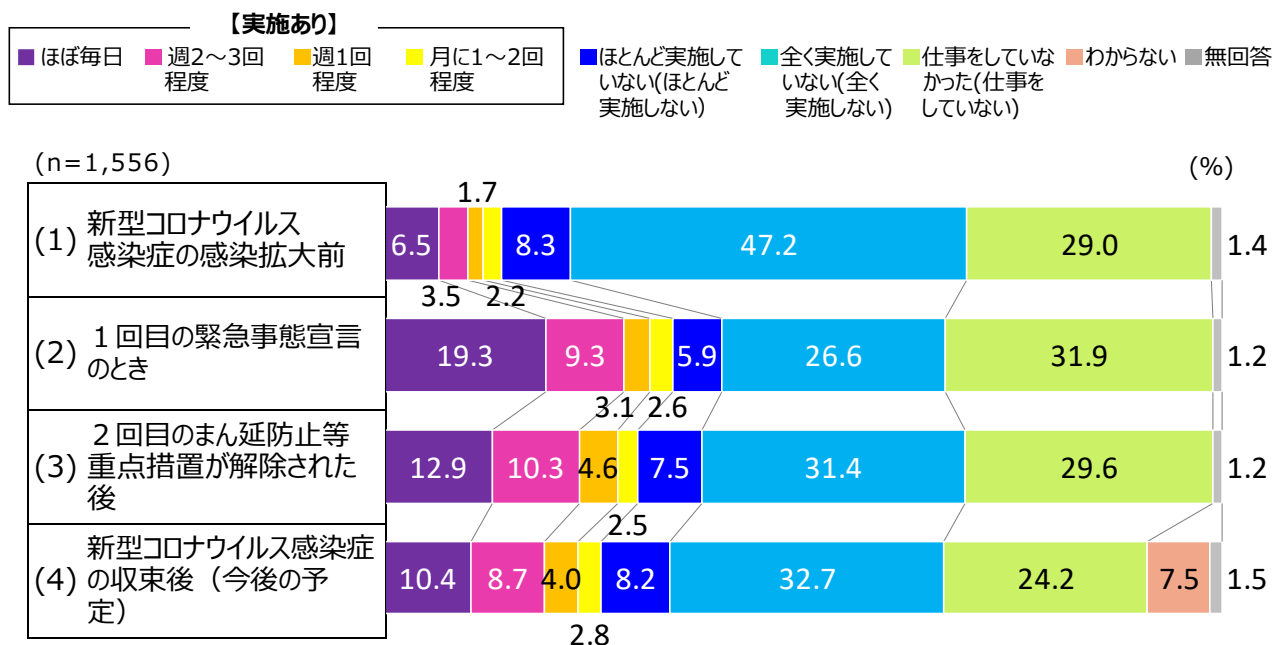
1 テレワークの実施状況

問 17. あなたのテレワークの実施頻度についてうかがいます。(1) から (4) それぞれの時期ごとに、最もあてはまるものを1つずつ選んでください。

- (1) 新型コロナウイルス感染症の感染拡大前 (2019(令和元)年 11 月)
- (2) 1 回目の緊急事態宣言のとき (2020(令和 2)年 4 月 7 日から 5 月 25 日までの間)
- (3) 2 回目のまん延防止等重点措置が解除された後 (2022(令和 4)年 3 月 22 日以降)
- (4) 新型コロナウイルス感染症の収束後 (今後の予定を教えてください)

テレワークの実施頻度については【実施あり】(「ほぼ毎日」、「週2～3回程度」、「週1回程度」、「月に1～2回程度」の合計)は(1) 新型コロナウイルス感染症の感染拡大前は 14.0%であったが、(2) 1 回目の緊急事態宣言のときの 34.3%をピークに、以降(3) 2 回目のまん延防止等重点措置が解除された後は 30.3%、(4) 新型コロナウイルス感染症の収束後(今後の予定)では 25.9%と下降しているものの、(1) の感染拡大前と比較して 11.9 ポイント高いという結果であった。

【図表 21】テレワークの実施状況



※「わからない」は(4)のみ設定。

2 市内の路線バスの利用頻度

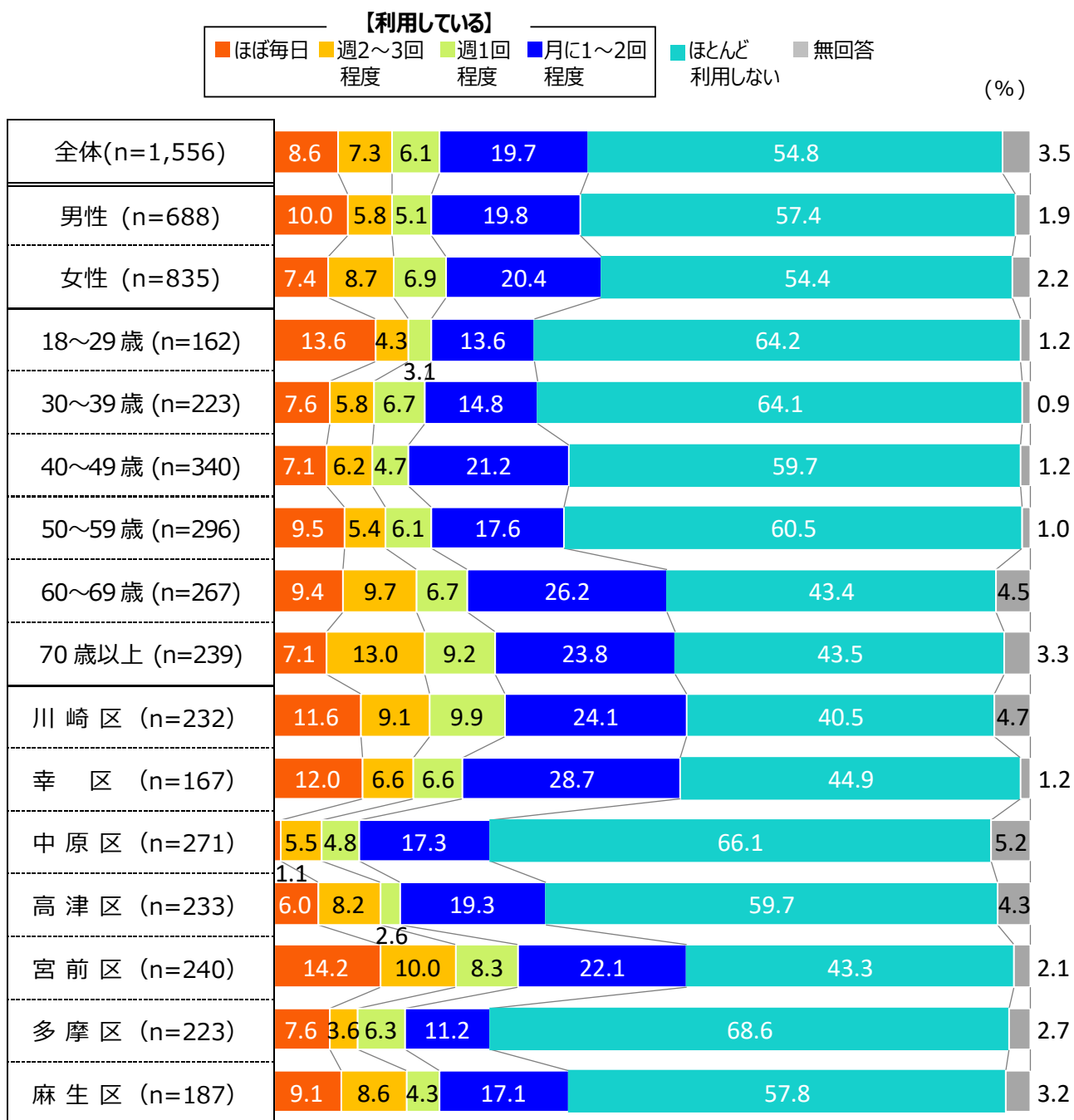
問 22. あなたは普段、どの程度市内の路線バスを利用していますか。
(自宅からの利用には限りません)

「ほとんど利用しない」が 54.8%と半数を超えている。【利用している】(「ほぼ毎日」、「週2～3回程度」、「週1回程度」、「月に1～2回程度」の合計)は 41.7%であり、そのうち「月に1～2回程度」(19.7%)が最も多くなっている。

年齢別に見ると、【利用している】は 60～69 歳 (52.1%) と 70 歳以上 (53.1%) では5割を超えて多くなっている。

居住区別に見ると、【利用している】は川崎区 (54.7%)、宮前区 (54.6%)、幸区 (53.9%) では5割を超えているが、中原区 (28.8%) と多摩区 (28.7%) では3割を下回った。

【図表 22】市内の路線バスの利用頻度 (性別、年齢別、居住区別)

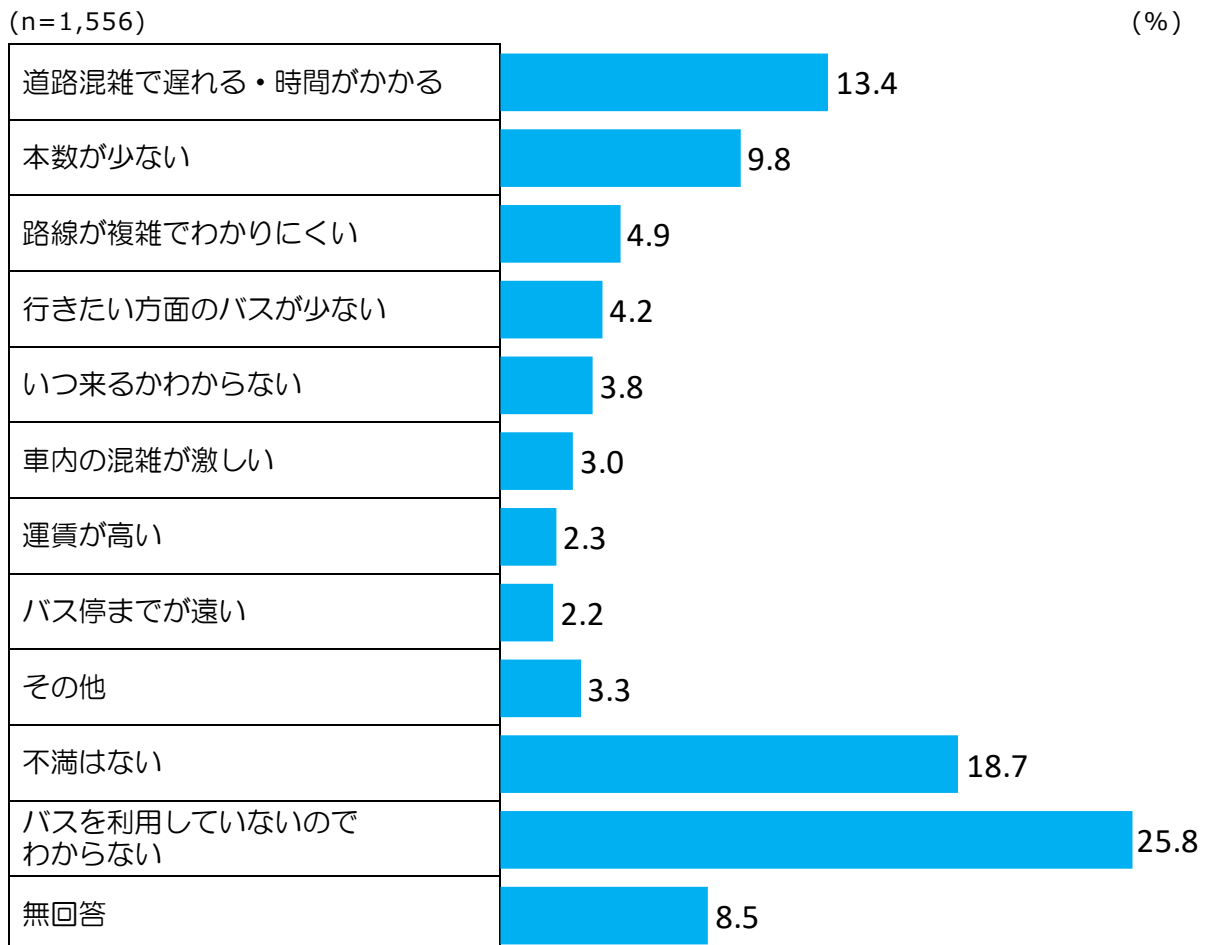


3 市内の路線バス利用において不満に感じること

問 24. 市内の路線バス利用において、あなたが最も不満に感じている点は何ですか。

全体では、「道路混雑で遅れる・時間がかかる」が 13.4%と最も多く、次いで「本数が少ない」(9.8%)、「路線が複雑でわかりにくい」(4.9%)と続いている。一方で、2割近くが「不満はない」(18.7%)と回答している。

【図表 23】市内の路線バス利用において最も不満に感じること

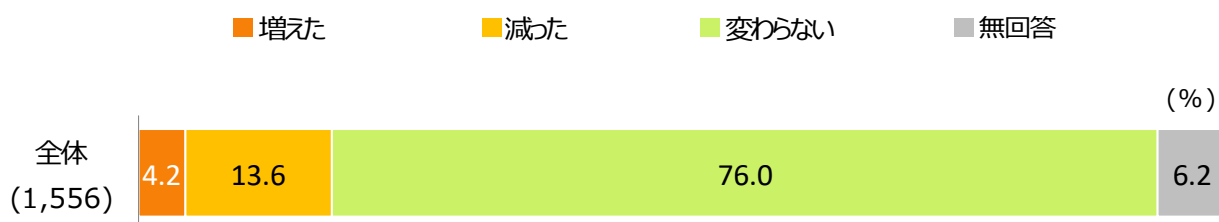


4 コロナ禍前と比較した路線バス利用頻度の変化について

問 25. 新型コロナウイルス感染症の感染拡大前（2019(令和元)年 11 月）と現在（2022(令和 4)年 11 月）を比較して、路線バスの利用頻度は増えましたか。それとも減りましたか。

「変わらない」が 76.0%を占め、「減った」が 13.6%、「増えた」が 4.2%であった。

【図表 24】 コロナ禍前と比較した路線バス利用頻度の変化について



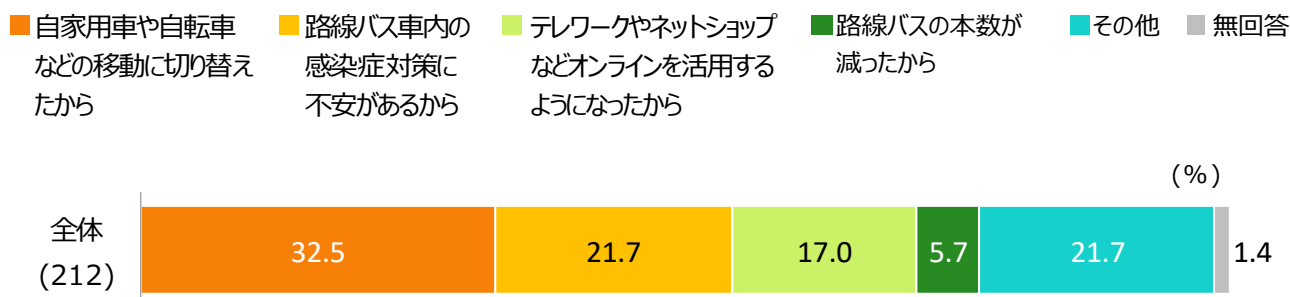
5 路線バス利用頻度減少の理由

問 26. 路線バスの利用頻度について、質問にお答えください。

・利用頻度が減った理由は何ですか。

新型コロナウイルスの感染拡大前と比較して路線バスの利用頻度が減った人に、利用頻度減少の理由についてたずねたところ、「自家用車や自転車などの移動に切り替えたから」が 32.5%と最も多く、次いで「路線バス車内の感染症対策に不安があるから」「その他」（共に 21.7%）、「テレワークやネットショップなどオンラインを活用するようになったから」（17.0%）、「路線バスの本数が減ったから」（5.7%）と続いている。

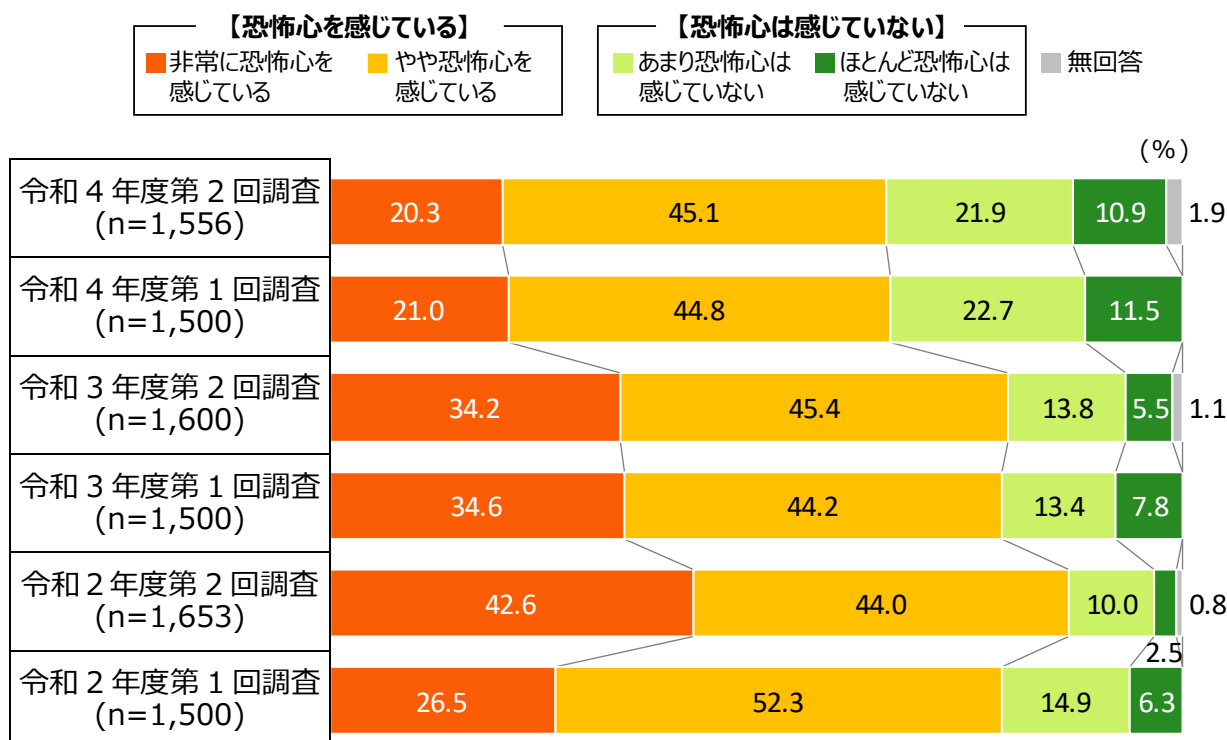
【図表 25】 路線バス利用頻度減少の理由



9 新型コロナウイルス感染症について

新型コロナウイルスへの恐怖心について同じ設問を聴取した過去の調査と比較すると、「非常に恐怖心を感じている」と「やや恐怖心を感じている」を合計した【恐怖心を感じている】は、令和2年度第2回調査の86.6%が最も多かったが、以降、令和3年度第1回・第2回調査はいずれも8割弱、令和4年度第1回・第2回調査はいずれも65%程度と減少傾向となっている。

【図表 26】 新型コロナウイルス感染症に感染することに対する恐怖心（過去調査との比較）



【参考】 調査時期における緊急事態宣言の状況について

	調査期間	調査方法	緊急事態宣言の有無
令和4年度第2回	令和4年11月1日～12月9日	郵送	無
令和4年度第1回	令和4年8月26日～9月6日	インターネット	無
令和3年度第2回	令和3年11月17日～12月24日	郵送	無
令和3年度第1回	令和3年9月3日～9月13日	インターネット	有 (令和3年8月2日～令和3年9月30日)
令和2年度第2回	令和2年11月18日～12月25日	郵送	無
令和2年度第1回	令和2年9月4日～9月14日	インターネット	無

令和4(2022)年度 かわさき市民アンケート概要版
令和5年3月発行

発行 川崎市総務企画局都市政策部企画調整課
〒210-8577 川崎市川崎区宮本町1番地
電話 044-200-2148 (直通) FAX 044-200-0401